

盛岡市の決算

一般会計

福祉や教育、都市整備など、市の主なお金の出し入れをしています。市に入ったお金が歳入、市が使ったお金が歳出です。

27年度の決算は、歳入から歳出を差し引いた19億8882万円から、28年度へ繰り越した事業の財源2億9839万円を差し引いた実質収支で、16億9043万円の黒字になりました。

使い道が決められていない普通税（市民税や固定資産税）と、使い道が決まっている目的税（入湯税と都市計画税）に分かれます。27年度の入湯税の収入額は5587万円で観光振興の補助や消火栓の整備に、都市計画税の収入額は20億6517万円で街路や公園、下水道の整備、区画整理などに充てました。

市の収入と支出を家計に例えると…

市税を年収360万円（基本給月額30万円）の家計に例えて、それぞれを家計の項目（年額）に置き換えています。

市民1人当たりで見ると…

いずれも年額で示しています

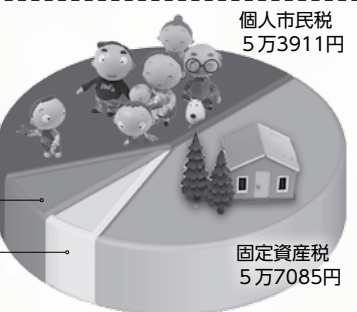


基本給（市税）	360万円
親からの支援（国・県支出金）	234万円
諸手当（地方交付税や交付金）	192万円
家の増改築のため借金（市債）	110万円
自宅の部屋を間貸し（使用料など）	18万円
古本を売却（財産収入）	4万円
預金の取り崩し（繰入金）	13万円
その他（雑入など）	47万円
計	978万円

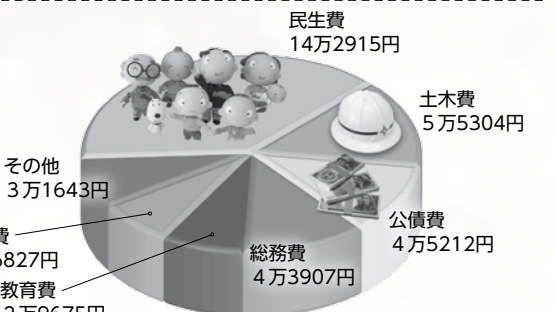
食費などの生活費（人件費・物件費）	258万円
医療費・健康保険（扶助費）	244万円
新しい自動車などの購入（普通建設）	131万円
ローンの返済（公債費）	110万円
生命保険など（補助費）	109万円
子どもへの仕送り（繰出金）	82万円
預金	14万円
家電や自動車の修理（維持補修費）	7万円
その他（災害復旧・貸付金など）	7万円
計	962万円

27年度の市民1人当たりの借金（市債残高）は45万871円で、昨年度に比べて6539円増えました。

市税の負担
=12万7293円
(前年度：12万8007円)



行政サービスの提供に掛かる費用
=37万5483円
(前年度：36万8910円)

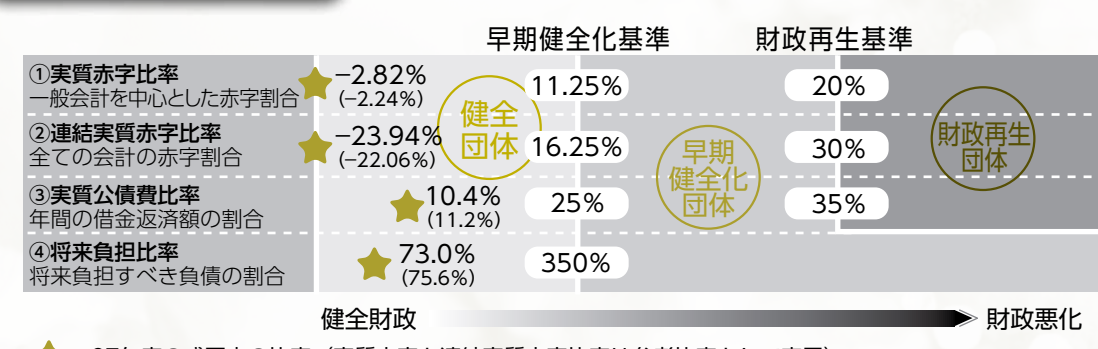


特別会計

国民健康保険費や介護保険費など、特定の財源で事業を運営しています。

特別会計(歳出)	(▲はマイナス)	
特別会計名	決算額	前年度との比較増減
国民健康保険費	318億3223万円	42億4028万円
介護保険費	234億2216万円	10億800万円
後期高齢者医療費	27億7581万円	▲1951万円
中央卸売市場費	15億9997万円	▲1207万円
農業集落排水事業費	5億2526万円	315万円
土地取得事業費	1億1360万円	▲2175万円
母子寡婦資金貸付	3497万円	▲1282万円
公設浄化槽事業費	2295万円	▲338万円
東中野財産区など	283万円	▲21万円
計	603億2978万円	51億8169万円

財政指標 (財政健全化判断比率)



認知症になっても 安心して暮らせるまちへ

正しく知ろう認知症 ～認知症サポート医に聞きました～



金子博純 医師
医療法人糖友会
金子胃腸科内科

認知症とは？

認知症は誰にでも起こり得る脳の病気です。さまざまな原因で脳の細胞が損傷を受けたり、脳の働きが悪くなったりすることで、記憶や思考などの能力が低下し、生活に支障を来す状態をいいます。また、認知症の人に接する家族や周囲の人たちの対応によって、徘徊や怒りっぽさ、うつ状態などの症状の現れ方に差が出る場合があります。もの忘れが増えたり、今まで出来ていたことが出来なくなるなどの変化に周囲の人は戸惑うと思いますが、その変化に一番混乱しているのは本人です。周囲の人が認知症について正しく理解し、本人の気持ちに寄り添いながら接することが大切です。

早期発見・対応が大切です

認知症は、早期に発見・治療することで、進行を遅らせたり、症状を緩和したりすることができます。早期発見のために「もの忘れ検診」を活用したり、身近なかかりつけ医、もの忘れ相談医※にご相談ください。
※もの忘れ相談医は市公式ホームページの「認知症みまもり（盛）ネット」に掲載しています

地域全体でのケアが必要

たとえ認知症になったとしても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、近所同士の見守りなど、地域全体でのネットワークづくりが必要です。また、認知症による徘徊の心配がある場合は、SOSネットワークシステムに登録しておきましょう。

不安なことは 地域の相談窓口へ

地域包括支援センターと介護支援センター（表）は、高齢者の総合相談窓口です。右のような相談に応じています。

表 地域包括支援センターと介護支援センター	
名称（所在地）	電話番号
盛岡駅西口地域包括支援センター（盛岡駅西通一）	606-3361
上田介護支援センター（上田一）	604-1335
浅岸和敬荘地域包括支援センター（浅岸三）	622-1711
松園・緑が丘地域包括支援センター（西松園二）	663-8181
ケアガーデン高松公園介護支援センター（上田字毛無森）	665-2175
五月園地域包括支援センター（東山二）	613-6161
ヴィラ加賀野介護支援センター（加賀野三）	651-5723
城南介護支援センター（神明町）	621-1215
青山和敬荘地域包括支援センター（南青山町）	648-8622
おでんせ介護支援センター（上厨川字横長根）	648-0621

認知症サポーター養成講座

【日時・場所】10月6日(木)14時～15時半は松園地区公民館（東松園二）、25日(火)13時半～15時は河南公民館（松尾町）
【費用】無料。当日、会場へどうぞ
【内容】認知症についての理解を深め、認知症の人への接し方を学びます。受講者には認知症サポーターの証しとしてオレンジリングを渡します

認知症サポーターとは
講座で学んだ知識を家族や友人に伝えたり、地域や職場、外出先などで、認知症の人に対してできる範囲でサポートするなど、認知症の人とその家族を理解し見守ることが役割です。現在、市内には約1万人の認知症サポーターがいます。



もの忘れ検診で早期発見！

【対象】65歳以上
【期間】10月31日(月)まで
【費用】無料
【受診方法】成人検診や特定健診、後期高齢者健診の受診の際、実施医療機関の窓口で、もの忘れ検診を希望する旨お申し出ください。実施医療機関は6月15日号に折り込みの「盛岡市検診だより」か市公式ホームページをご覧ください



加齢によるもの忘れと認知症の違い
加齢によるもの忘れと、認知症の症状では次のような違いがあります。自身や家族で確認してみましょう。

加齢によるもの忘れ	認知症の症状
体験の「一部」を忘れる	体験の「全部」を忘れる
親しい人やよく行く場所が分らない	親しい人やよく行く場所が分からなくなる
性格は変わらない	性格に変化がある
自分の今いる場所や時間が分らない	自分の今いる場所や時間が分からなくなる

盛岡広域シルバーケアSOSネットワークシステム

「盛岡広域シルバーケアSOSネットワークシステム」は、徘徊の心配がある人を事前に登録するシステムです。登録者が行方不明になった場合などに、警察や行政、支援センターなどが連携し、行方不明者の早期発見につなげます。登録は各警察署か長寿社会課、各地域包括支援センター・介護支援センターでできます。

履物用ステッカーの活用
SOSネットワークシステムに登録し、希望する人には、履物用ステッカーを配布。徘徊している認知症の人が名前や住所を答えられなくても、ステッカーの番号から、市や警察が、身元や家族の連絡先を確認することができます。



- 介護や福祉サービス
- 在宅生活の悩み事
- 高齢者に対する虐待
- 成年後見制度について
- 家族の認知症 など



名称（所在地）	電話番号
みたけ・北厨川地域包括支援センター（月が丘三）	648-8834
イーハトーブ地域包括支援センター（本宮一）	636-3720
千年苑介護支援センター（上太田穴口）	658-1190
地域包括支援センター川久保（津志田26）	635-1682
都南あけぼの荘介護支援センター（湯沢4）	639-2528
飯岡介護支援センター（永井14）	605-7077
希望の里介護支援センター（乙部5）	696-4386
玉山地域包括支援センター（好摩字夏間木）	682-0088
秀峰苑介護支援センター（下田字羽根）	683-1526